

令和4年度全国学力・学習状況調査 三郷市の調査結果分析と今後の方策例

主な成果 (○) と課題 (▲) 全国差：全国平均正答率との差

中 学 校 理 科	
<b>全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）</b>	
<p>○平均正答率は、46.0%である。</p> <p>○平均正答数は、9.6問/21問であり、全国を下回る。※全国10.4問/21問</p> <p>○市の平均正答率は、全国差－3.3%である。</p>	
<b>学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式別結果</b>	
<p>○学習指導要領の領域「『地球』を柱とする領域」では、全国差－2.3%である。</p> <p>○評価の観点「思考・判断・表現」では、全国差－3.5%である。</p> <p>○問題形式「短答式」では、全国差－1.8%である。</p>	
<b>問題別結果（正答率、無回答率からの分析）</b>	
<p>○<b>2</b>－（3）「飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる」では、全国差＋2.3%である。</p> <p>○<b>7</b>－（2）「実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる」では、全国差＋0.9%である</p> <p>▲<b>8</b>－（3）「未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる」では、全国差－9.9%である</p> <p>▲市の平均無回答率は4.1%であり、全国の平均無回答率3.4%を上回る。</p>	
<b>今後の方策例（※6－（1）を例に）</b>	
<p>「玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」</p> <p style="text-align: center;">令和4年度 全国学力・学習状況調査報告書（国立教育政策研究所）より</p>	
<p>○ 岩石に関する知識及び技能を活用し、化石が含まれる可能性の有無を判断できるようにする</p> <p>身近にある岩石に化石が含まれる可能性の有無について、岩石に関する知識及び技能を活用して判断することは、理科を学ぶことの意義や有用性を実感する上で大切である。</p> <p>指導に当たっては、本問のように、地域にどのような岩石が分布しているかを調べ、身に付けた岩石に関する知識及び技能を活用して、化石が含まれる可能性の有無を判断する学習場面を設定することが考えられる。</p> <p>その際、岩石を観察して、その組織から火成岩と堆積岩に分類し、化石が含まれる可能性を考えるようにすることも重要である。</p>	